



2021～2022 年度  
大船渡西ロータリークラブ会報

# 七福人



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

RI 会長テーマ

会 長 志田 成樹

副会長 菅野 嘉洋

幹 事 三田地 大悟

＝会長指針＝

多様性を尊重し、

未来につなげる

## ．．． 例 会 記 録 ．．．

7 月第 2 週例会 2021 年 7 月 8 日 (木)

ソ ン グ : 我等の生業 ボックス : 30,000 円 (報告者 松岡克之会員)

お客様紹介 : 第三分区ガバナー補佐 <sup>きただ</sup> 北田 <sup>ふみと</sup> 文人様

本日出席率 : 69.44% 前回修正後 100% (メンバー 11 名) (報告者 志田宏美会員)

### ★ 北田文人ガバナー補佐ご挨拶



千厩ロータリークラブ所属

職業分類 : 電気工事

今年度第三分区のガバナー補佐を務めます北田です。

北田という姓は一関市には私のみです。

補佐として皆様にお伝えすべきことがあるはずなのですが、ガバナーと直接お会いする機会もなく、準備不足でのスタートとなりますが、RI 会長のテーマを基に活動してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

### ★ 会長の時間 : 志田成樹会長



コロナショックで世界中の株価が暴落している中、チャットや Web 会議ツールを手掛けている Zoom (ズーム) が逆行高となっている。感染症拡大を背景に、Zoom のユーザー数が大幅に増加し、3 月 23 日に同社の株価は一時 164 ドル以上に上がり、上場後の最高値を記録した。

創業者のエリック・ユエン氏は 1970 年、中国山東省泰安市生まれ、父は鉦山技師で、その影響もあって山東鉦業学院 (現・山東科技大学) に進学、87 年卒業。

いわゆるエリート校ではない。94 年、勤めていた会社の出張で日本に滞在していた

際、来日したビル・ゲイツの講演を聞き、感銘を受けて米国行きを志す。

ビル・ゲイツが行った演説は、若き日の袁征氏を奮い立たせるのに十分なものだった。「私たちはネット上で書籍を購入し、ネット上にあるメール BOX を使用する。インターネットは完全に異なるひとつの世界だ」彼はインターネットが未来をつくと確信していた。「その当時、ウェブブラウザの代表的存在だったネットスケープと Yahoo の強大さ、米国での人気の高さに気づいた。」彼はチャンスの波を捕まえようと単身渡米を決意したが、アメリカビザの取得は思ったよりスムーズにできなかった。1994 年から 1995 年にかけて申請を拒否された回数はなんと 8 回。9 回目にしてようやく取得することが出来たという。1997 年、当時はまだ英語がうまく話せなかった袁征氏だが、WebEx へ入社。創立エンジニアの一人となり同社で 14 年間勤めることとなった。

2007 年にはシスコが WebEx を 32 億ドルで買収。その後、袁征氏は VPoE (Vice president of engineering) へと昇進した。シスコの傘下となった WebEx は、彼の指揮下で、当初 10 名しか在籍していなかったエンジニアが 800 名以上に増え、収益は 8 億ドル以上となった。

シリコンバレーで働くほとんどの中国人エンジニアにとって、袁征氏のようなポジションに立つことは、人生のピークを意味するだろう。しかし彼はこれだけでは満足せず、2011 年に起業を決意。Zoom 立ち上げにあたって、40 人以上のエンジニアが彼についてきてくれた。

WebEx を離れることにした理由について聞かれると、「当時の WebEx は、パワーポイント等の資料をオンライン共有する WEB 会議サービスに重点をおいていたが、ユーザーはテレビ会議の画質や音声のクオリティアップを求めている。コラボレーションソリューションではなく、顧客のニーズに的確に応えられるソリューションを提供する必要があった」と答えている。その頃、Facetime などのビデオ通信ソフトウェアは、ユーザーに満足してもらえるようなレベルとは言えず、大いに改善の余地があった。袁征氏はこの市場にビジネスチャンスを見だし、クラウドを活用したプラットフォームを設立することを決意したのだ。このようにして、WebEx の次世代を目指し、Zoom Video Communications が設立された。

Zoom を立ち上げることとなったそもそもの発端は、1980 年代当時、彼が大学生の頃にガールフレンドと遠距離恋愛をしていた経験によるものだった。そこからテレビ電話の開発を思いついたのだ。

Zoom の成功のカギは「幸福」だと言う。袁征氏は「人生の目的とは幸福を追求することであり、永続的な幸福は他人の幸せを生むことで得られる」と説明し、さらに、Zoom のモットーは、社員と顧客の幸せを一番に考えていると付け加えた。

現在、ユニコーン企業の Zoom が毎年提供しているビデオ会議の時間は 200 億分を超える。また、Fortune 500 にランキングされている企業の 1/3 と約 200 校の大学を相手にビジネスを行っている Zoom だが、初めて有料会員を獲得したのは 2012 年。オンライン教育プラットフォームのソリューション提供を求めて、スタンフォードの継続教育カレッジから連絡をうけたのが最初だった。

Zoom が設立当初から個人顧客ではなく企業をターゲットユーザーとしたのは何故なのかとの質問には、一般消費者と比べて、ナレッジワーカーやリアルタイムでやり取りをするビジネスミーティングで発生するニーズには、より切実なものがある」と述べた。

Zoom は中小企業と大企業それぞれに異なった戦略を用いてアプローチすることで、両社のニーズバランスを保っている。大企業のテレビ会議で求められる高度なセキュリティについても、同社では完全に対応可能であるとしている。

他のソフトウェアと比較すると、Zoom の最大の利点はその使いやすさにある。ダウンロード後、アカウントへログインするだけで、すぐに複数人と通信を開始することができるのだ。加えて、サーバーとネットワーク環境が不安定な場合、オンライン通話はよく途切れてしまうことがあるが、Zoom なら比較的スムーズな通信が可能である。

クライアントへプレゼンテーションをする場合、もしくは同僚とリアルタイムで討論する必要がある場合には、ビデオプラットフォームの方が利便性が高い。袁征氏は「現代のビジネス現場において、Zoom は他企業が真似できないようなサービスを提供することができる」と述べた。

現在、テレビ会議を代表とするビデオ通信を用いた働き方が注目を集めているが、将来的には、このようなオンラインコミュニケーションや WEB 会議室がビジネスの主流となるのだろうか？

この問いに対して、袁征氏は「ミレニアルズ (Millennials) 世代」の例を取り上げ、「彼らはインターネット時代に成長し、音声通信よりもビデオ通信に慣れている。ビデオ通信を用いたコミュニケーションツールはこれからビジネスの主流となるだろう。」と述べた。また、この先職場スペースはますます少なくなり、一方で会議室はますます多くなると予測している。そうなれば、クラウド型のコラボレーションプラットフォームが才能を発揮するようになっていくのだろう。

現在の Zoom の事業は主にビジネス分野に集中しているが、将来的に一般顧客向けのビジネスを展開する計画はないのかと訊ねられると、「将来的にはあり得るかもしれないが、現段階では考えていない。現状、私たちの目の前には大企業のビジネスユーザー市場が広がっていて、そこにはまだ大きなチャンスが隠れているからだ」と話した。

Zoom は設立からこれまで、主に英語圏の国で活躍してきた。地域別の収益比率では北米が約 90% を占め、残りが英国とオーストラリアとなっている。しかし今年に入ってから同社は、フランス、ドイツ、日本の三ヶ国で新たな市場を開拓しはじめた。

## 1 ガバナー事務所より

- ・ 静岡県・神奈川県土砂災害に関する義援金拠出のお願いが届いています。

1人 1,000円程度 締め切 7/31

- ・ 7月のロータリーレート 1ドル111円と連絡あり

## 2 岩出山ロータリークラブより 創立50周年の記念誌が届いています。

## 3 先程の理事会で次の2名の方の入会を承認いたしました。(敬称略)

FAXにて皆様へお諮りいたしますので、ご意義のある方はお申し出ください。

菅原実様 (株)アメリカヤ 佐藤忠久様 (株)佐清分店

## ◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

## クラブ協議会：新理事挨拶

## ★ 鈴木秀樹クラブ奉仕委員長



今年度クラブ奉仕委員長を務めます。鈴木秀樹です。

四大奉仕の第一部門である「クラブ奉仕」について、ロータリークラブ定款では、「クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員がとるべき行動に関わるものである」と記述されております。この文面だけではちょっと分かりにくいので、これを企業組織に例えてみますと、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕は、営業を担当する部門であり、クラブ奉仕はその営業部門を支える管理部門に相当すると言えるのではないのでしょうか。企業では営業部門と管理部門がお互い

に支え合いながら、企業としての最大の成果が得られるように、運営を図って行きますが、ロータリークラブにおいても「クラブ奉仕」部門は同じ様な役割が期待されています。

コロナ禍でどのくらい活動ができるかは、わかりませんが。できるだけ活動を広げられるよう頑張りたいとおもいます。中でも親睦に関しては、特に力を入れていきたいと思っております。なぜなら会員同士の親睦が出席やロータリーの団結力につながると感じるからです。仲間と共にする時間は、何より貴重だとおもいます。ひいてはそれが会員拡大またロータリー活動の周知等にもつながるとおもいます。

一年間頑張りますので皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

## ★ 紀室綾子職業奉仕委員長



職業奉仕とは「自らの職業を通じて社会へ貢献をする」という理念の下、それぞれの職業を通じて社会に貢献し、各々が「四つのテスト」を常に意識し、高い倫理観を持ち、このコロナ禍においても出来るだけ多くの皆さんの為になるよう、好意と友情をもって、職業奉仕メンバーとともに笑顔で前向きに活動して行きたいと思っております。実践に掲げております模擬面接会ですが、ワクチン接種も大分進むものと思われ、昨年同様、感染対策を取りながら実施する予定であります。私たち企

業にとっても大変厳しい時期でもあります。将来、企業の大きな力となる青少年＝生徒さん達の為に、西ロータリー一丸となって奉仕出来ればと思っております。残念ながら大幅に会員数も減っておりますので、会員皆様のご協力を更にお願ひしたいと存じます。

最後になりますが、このコロナ禍により、社会の在り方や価値観が変わろうとしています。

志田年度のテーマ「多様性を尊重し、未来につなげる」の下に、自らの職業も含め、「未来ある変革とは何か！」を、職業奉仕を通じて学んで行きたいと思っております。

一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ★ 新沼達央社会奉仕委員長



本年度、社会奉仕委員会の委員長を拝命致しました新沼達央です。

改めてよろしくお願い致します。

社会奉仕委員会メンバーは、小委員長に上野哲会員、他7名のメンバーでこの1年間活動して参ります。

(熊谷雅也氏・山口康文氏・浜田弘誠氏・藤沢和也氏・高木久木氏・鳥井絹氏・伊藤 言氏)

コロナ禍でもあり、屋内で多くの人数の集まる活動は制限されると思いますが、屋外実施の盛川河川敷の清掃活動・「育みの像」、「四つのテスト碑」、「カメラアロード清掃」、そして「50周年記念碑」の清掃活動はしっかりと実施して行きたいと思っております。

地域課題のみならず日本の課題ともいえる結婚支援活動も目標に掲げておりますが、大船渡市との連携の中色々な機会を通して委員会として支援活動をすると同時に結婚応援企業登録の拡大も推進して参ります。福祉施設等との交流を通して、社会福祉の理解深耕の為に、「百年の里」の盆踊り大会の事業支援を通しての参加、「吉浜荘」へのタオルの寄贈を継続して実施して行きたいと思っております。

委員会メンバーの協力、そして会員のみなさんのご指導・ご支援をもって、本年1年間、充実した活動を実施していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## ★ 松田福美国際奉仕委員長



国際奉仕委員長を拝命いたしました松田福美です。

今年度国際奉仕委員会では、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響の為国内外での移動が制限されることから、新たな国際関係の構築を模索してまいります。

小委員長の藤原太伸さんをはじめ、委員の齊藤俊明さん、水野賢一さん、古内一二さん、志田宏美さんと共に国際青少年、世界社会奉仕の継続事業を本年度も実施したいと思っております。

また、ロータリー財団の小委員長船砥俊昭さんと委員の松岡克之さんと共に、財団への理解と協力を推奨する活動を実施してまいりたいと思っております。

コロナ禍ではありますので、会員の第一に活動に努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## ★ 藤丸数子青少年奉仕委員長(代読 三田地大悟幹事)



今年度、青少年奉仕委員長を拝命いたしました藤丸数子です。

青少年奉仕委員会は、インターアクトクラブが目標としている

「建設的な指導力を養成し、自己の完成を図る」「他人に対する

思いやりと、他人の力になる心構えの奨励と実践」等、奉仕の精神と国際理解を付与するための指導・助言をしながら地域社会に貢献できる青少年の育成の支援を目的としています。

また、大船渡東高校インターアクトクラブの活動に協力支援します。

先週は大船渡警察署前の花壇整備にご参加いただきありがとうございました。

今年度の青少年奉仕委員会は小委員長の石川恵美子さんをはじめ、濱守豊秋さん・橋爪文人さん・鈴木信男さん・菅野嘉洋さんと活動してまいります 1年間よろしくお願い致します。

活動としましては、今年度はインターアクトクラブ年次大会の主管クラブとなっておりますが、年次大会の開催は中止となりました。現在代替案を検討しております。

また、今後の予定につきましては状況に合わせて対応していきたいと思っております。

できることを精一杯努めてまいりたいと思っておりますので、皆様よろしくお願い致します。

